

保護者のみなさまへ

吹田市立千里丘北小学校
校長 小林 大介

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全体的に全国値を上回る。

●国語《各領域における成果と課題》

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

・全国値を上回る。

(2) 情報の扱い方に関する事項

・全国値をやや上回る。

思考力,判断力,表現力

A 話すこと・聞くこと

・全国値をやや上回る。

B 書くこと

・全国値をやや下回る。

C 読むこと

・全国値をやや上回る。

- ・ 国語全体に関しては、全国平均をやや上回っています。
- ・ 記述式の問題は全国平均とほぼ同じでした。「【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。」の中で、3つの条件のうち、心に残ったところを書く、文字数の条件を満たしていないものが多かったです。
- ・ 言葉の特徴や使い方に関する事項は、全国平均を上回っており、基礎学力が定着していることがうかがえます。
- ・ 複数の資料を参照しながら解く必要がある問題において資料を関連付けながら考えることに課題が見られました。

◆今回焦点化した問題について◆

問題の趣旨

目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかを見る問題。

本校の正答割合

本校は、全国・大阪府・吹田市の正答割合を下回りました。

課題

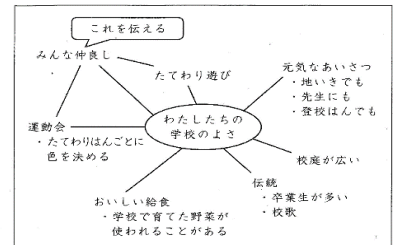
複数の情報を関連付けながら考えることに課題があることが分かりました。

一 「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」について、次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 高山さんは、文章を書くことを決めるために、どのように考えましたか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 賛成と反対の両方の立場から考えた。
- 書きやすい順番を考えた。
- 他の人の考えを取り入れて考えた。
- 集めた情報の共通点を考えた。

【高山さんのメモ】



【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



高山さん

2 高山さんの学校では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章を書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

★国語科の成果と今後の課題について

国語全体を見ると、全国値を上回っていました。その中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」に関しては全国正答率を上回っていました。

無回答率は、全国平均とほぼ同じになりました。「書くこと」の領域においては全国値を下回っています。「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。」問題です。この問題の無回答率もやや高く、回答していても、複数の資料を関係付けずに回答している児童が多くいました。このことから、複数の情報を関連付けながら考えることに課題があることがわかりました。

今後は、目的を明確にしたうえで、一つ一つの資料に対して感想や意見を表出する活動を取り入れていきたいと思えます。そして、段階的に資料を増やし、複数の資料を関係付けながら考えを形成できるようにしていきます。

●算数《概要》

全国値を上回る。

●算数《各領域における成果と課題》

- | | |
|----------|-------------|
| 『数と計算』 | ・全国値をやや上回る。 |
| 『図形』 | ・全国値を上回る。 |
| 『変化と関係』 | ・全国値をやや上回る。 |
| 『データの活用』 | ・全国値を上回る。 |

★算数科の成果と今後の課題について

算数全体を見ると、全国値を上回っています。その中でも、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域においては、全国正答率を上回っていました。「変化の関係」の分野全体においても全国値をやや上回っていますが、問題で見ると1問やや下回るものがありました。「3分間で180m歩くことを基に、1800m歩くのにかかる時間を書く」問題です。 $1800 \div 180$ は9割程の児童がしていますが、「3分間」を考えずに解答している児童が全国よりも多いことがわかり、見直しの重要性を考える問題となりました。その他では、記述式の問題は4問あり、どの問題も全国正答率より高い結果でした。問題の意図を正しく読み取り、正しく文章に表すことができていることがわかりました。

以上の結果から、本校児童は四則の計算について正確に理解ができていると考えられます。しかし、1つ答えが出たのちに、それに続く解法を導くための粘り強さに課題が見られます。

無回答率も低く、記述に関する抵抗も少ないことから、意欲関心を持って学習に臨むことができていると考えられますが、改めて問題を「見直すこと」「確かめること」の大切さを知る結果であったため、日頃の学習から検算だけでなく、意識的に問題を読み返す指導を行っていきます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活習慣について】

- ・「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。」の項目で肯定的回答が全国、大阪府の平均と比べて上回っていました。
- ・「人が困っているとき、進んで助けていますか。」「自分にはよいところがあると思いますか。」「友達関係に満足していますか。」「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思いますか。」の項目では肯定的回答が全国、大阪府の平均と比べてやや下回っていました。

新型コロナ下における学習活動の制限で、多様なつながり、協働、社会貢献の経験が欠落したことも大きな一因になるかと考えます。今後は学級、学年での交流はもちろんのこと、異学年や地域との交流など「つながり」を積極的に取り入れいく必要があると感じます。

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目では9割以上の肯定的な回答があり「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」が全国、大阪府の平均を上回っていました。全市的にも毎年、取り組んでいるいじめ予防プログラムの結果が出ているものと思われます。
- ・ICT機器を活用して「自分のペースで学習を進める」「考えを分かりやすく伝える」ことができたかの項目では、全国、大阪府の平均と比べて上回っており、学習でのICT機器の有用性を感じている児童が多いことが分かりました。

【教科・学習について】

- ・「国語、算数の勉強は大切だと思いますか。」では9割以上の肯定的な回答があり、「国語、算数の勉強は好きですか。」の項目では肯定的回答が全国、大阪府の平均をやや上回っていました。

3. 今後の取り組み

本調査の結果から、本校児童の学力は全体的には全国値を上回っており、良好な学力傾向であると言えます。しかし、項目別にみると資料の活用や問題によっては無回答率が高いことが課題として見えてきています。知識だけではなく身に着けたものをいかに活用して粘り強く問題を解決していくかということが求められます。そのためには授業では1問1答ではなく学習意欲を引き出す発問の仕方の工夫や、ペアやグループでの交流活動を通して幅広い考え方に触れて自らの学びを深める授業づくりの展開を目指していきます。

児童質問紙アンケートでは「学校に行くのが楽しい」や「将来の夢や目標を持っている」の設問をはじめとして多くの設問で肯定的回答が全国値を上回っており、概ね良好な学校生活を送っていることがうかがえました。引き続き、すべての子どもが安心できる学校づくりを目指して、共通ルールでの学習活動や、いじめ、問題行動への丁寧な対応を心がけていきます。児童の健全な成長のため、今後も学校教育に対するご理解とご協力をお願い致します。